

中国地域の経済動向

(2025年12月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

*生産動向と個人消費は2025年についてまとめました。

2026年2月19日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2026年1月（11月指標中心）		2026年2月（12月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	足踏み状態となっている
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で減少
4. 景況感	現状は前月に比べ上昇、先行きは低下	現状は前月に比べ低下、先行きは横ばい
5. 貿易	輸出は前年同月比で増加、輸入は減少	輸出、輸入ともに前年同月比で減少
6. 建設動向	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で減少	件数、負債総額とも前年同月比で増加
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ~緩やかな持ち直しの動きがみられる~

2025年12月の鉱工業生産指数は96.8、前月比▲4.7%の低下となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は低下、在庫は上昇、在庫率は低下となつた。

2025年の鉱工業生産指数は100.4、前年比▲3.7%の低下となった（2020年=100）。出荷は低下、在庫（末）は上昇、在庫率は上昇となつた。

【主要業種の動向（2025年）】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、上期の販売環境の変化で生産が減少し、下期はモデルチェンジした一部車種の増産により生産水準が上がつたものの、前年比で低下した。

化学工業（除。医薬品）は、需給環境の悪化、一部品目の生産終了や定期修理の影響により前年比で低下した。

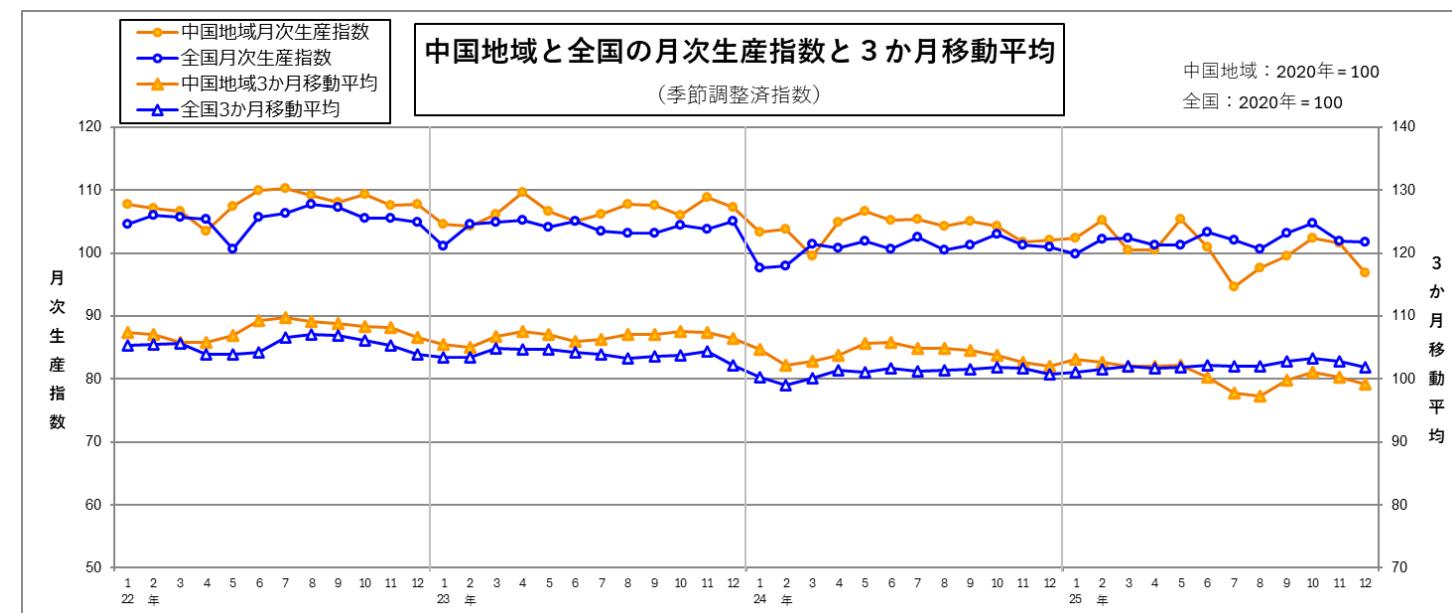
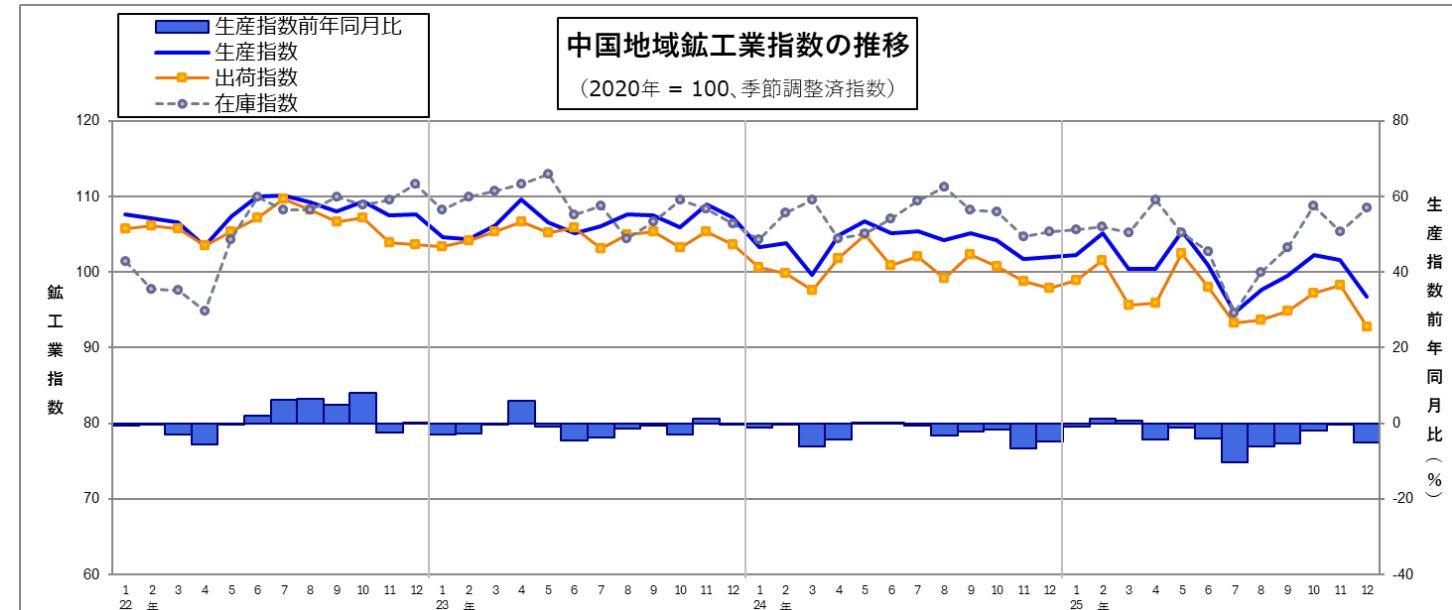
汎用・業務用機械工業は、海外向け大型機械などの受注、出荷のタイミングにより前年比で低下した。

鉄鋼業は、高炉の停止に加え、自動車向けや建設向け需要の減少もあり前年比で低下した。

詳細データはこちらから



（資料）「中国地域鉱工業生産動向」（中国経済産業局）



2. 個人消費 ~足踏み状態となっている~

2025年12月の商業6業態の販売額は2,574億円で、前年同月比▲0.4%と14か月ぶりに前年を下回った。

	6業態における構成比	販売額	(全店舗、%)	
			前年同月比	前月の前年同月比
6業態		257,390	▲ 0.4	14か月ぶりにマイナス
百貨店	8.6%	22,058	▲ 2.9	3か月ぶりにマイナス
スーパー	33.1%	85,151	2.2	14か月連続プラス
コンビニエンスストア	23.4%	60,260	1.6	3か月連続プラス
ホームセンター	8.2%	21,014	▲ 6.1	5か月連続マイナス
家電大型専門店	9.3%	23,899	▲ 3.2	5か月ぶりにマイナス
ドラッグストア	17.5%	45,007	▲ 2.0	48か月ぶりにマイナス

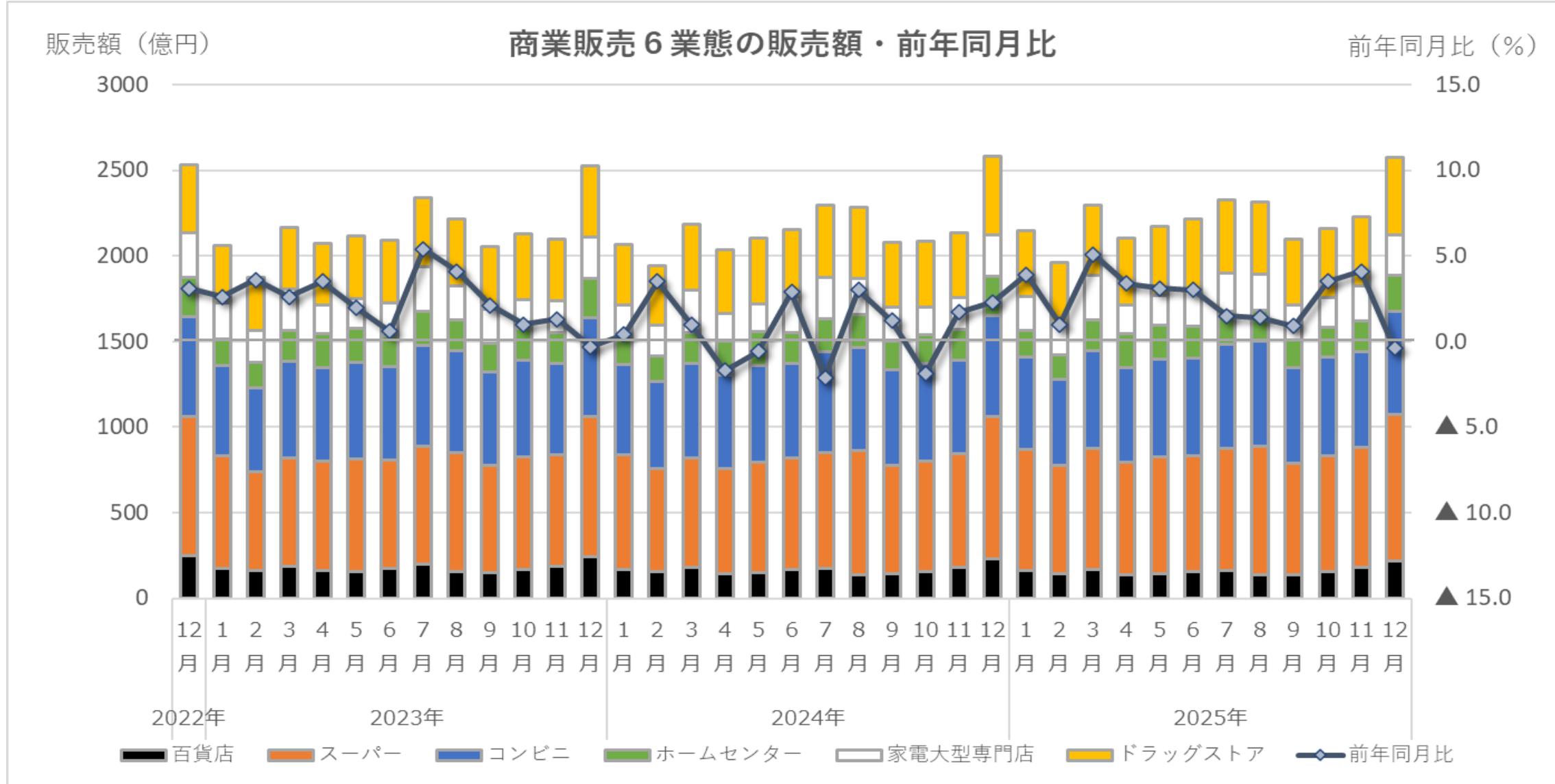
2025年の商業6業態の販売額は26,595億円で、前年同月比2.5%と5年連続で前年を上回った。

	6業態における構成比	販売額	(全店舗、%)	
			前年比	前年の前年比
6業態		26,595	2.5	5年連続プラス
百貨店	7.1%	1,900	▲ 3.9	3年連続マイナス
スーパー	31.6%	8,414	5.1	4年連続プラス
コンビニエンスストア	25.7%	6,823	1.8	5年連続プラス
ホームセンター	8.1%	2,164	▲ 1.1	5年連続マイナス
家電大型専門店	9.2%	2,450	2.2	5年ぶりプラス
ドラッグストア	18.2%	4,844	3.5	17年連続プラス

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	340	3.0 %
コンビニエンスストア	3,054	▲ 0.1 %
ホームセンター	402	0.0 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,068	2.2 %

その他のデータはこちらから





(資料)「商業動態統計調査」(経済産業省)「中国地域百貨店・スーパー販売動向」(中国経済産業局)

2. 個人消費

(1) 百貨店の状況 (2025年)

春は低温により、秋は残暑により衣料品が低調だった。また、物価高による節約志向の高まりで鮮魚や精肉、総菜などの飲食料品が低調だった。一方、ラグジュアリーのハンドバッグや宝飾品が好調だった。

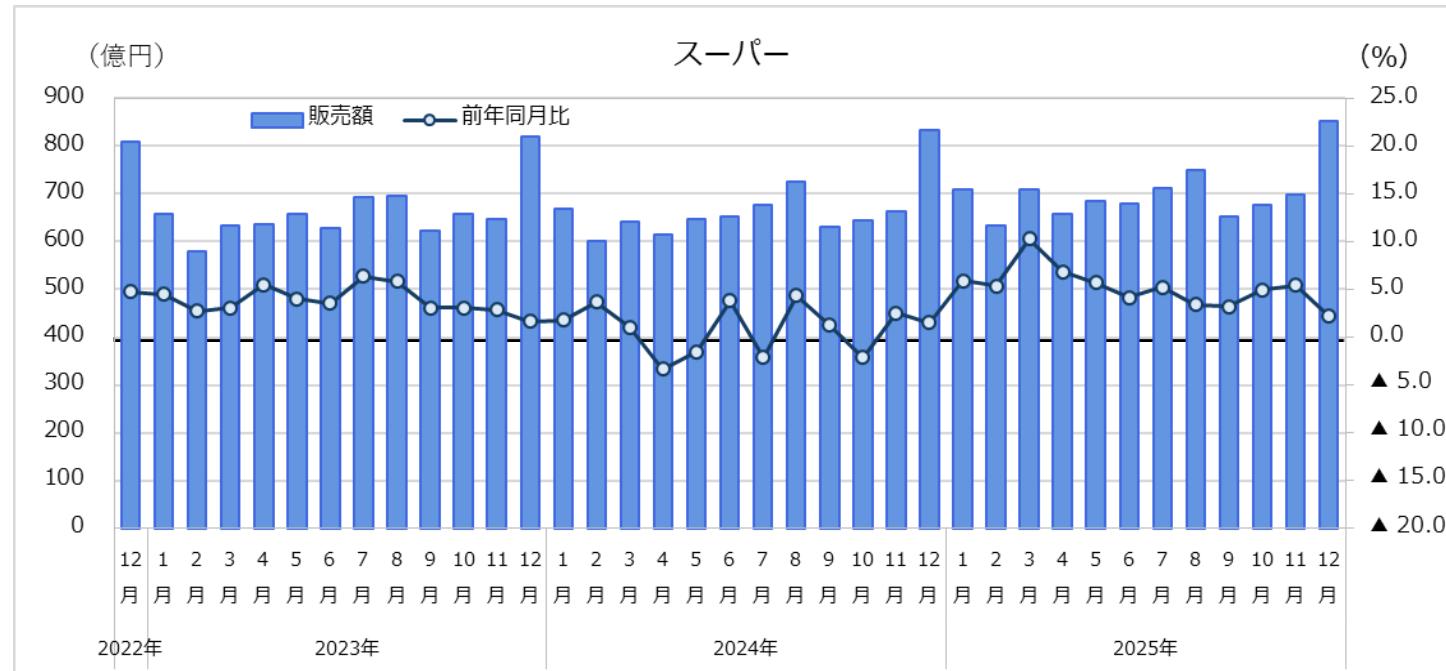
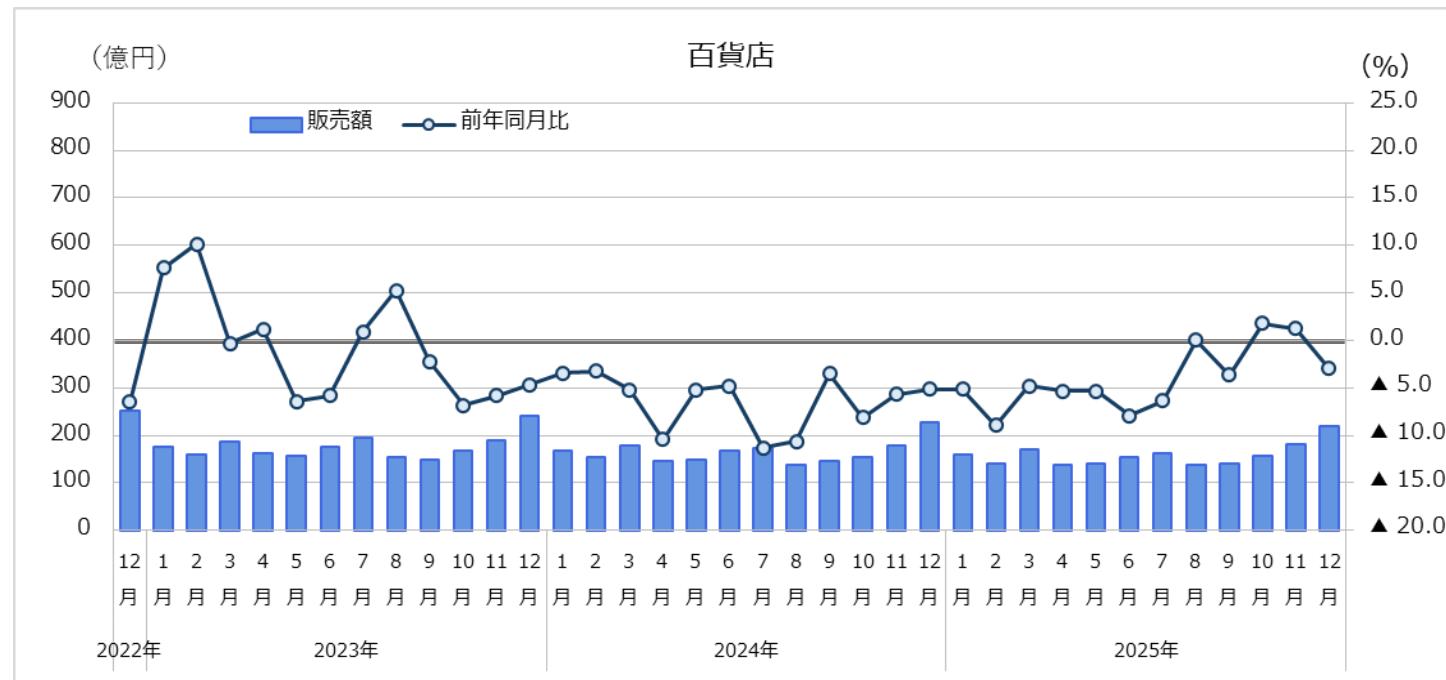
(2)スーパーの状況 (2025年)

飲食料品は長引く価格上昇により米や卵の売上が増加したほか、ハレの日のパーティーメニューは、容量の少ない刺身、寿司、揚げ物などが好調だった。一方、長く厳しい残暑で夏物、秋物の衣料品の売上が減少した。

詳細データはこちらから



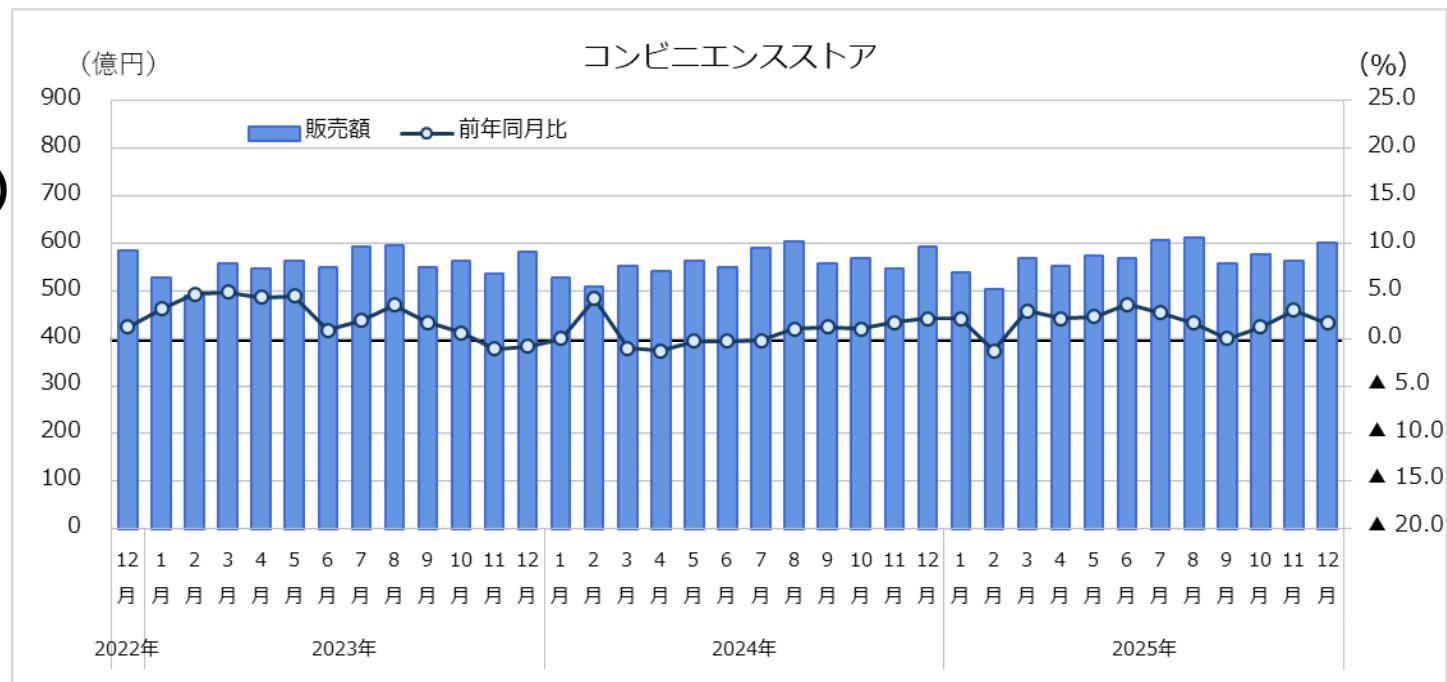
(資料) 「商業動態統計調査」(経済産業省)
「中国地域百貨店・スーパー販売動向」(中国経済産業局)



2. 個人消費

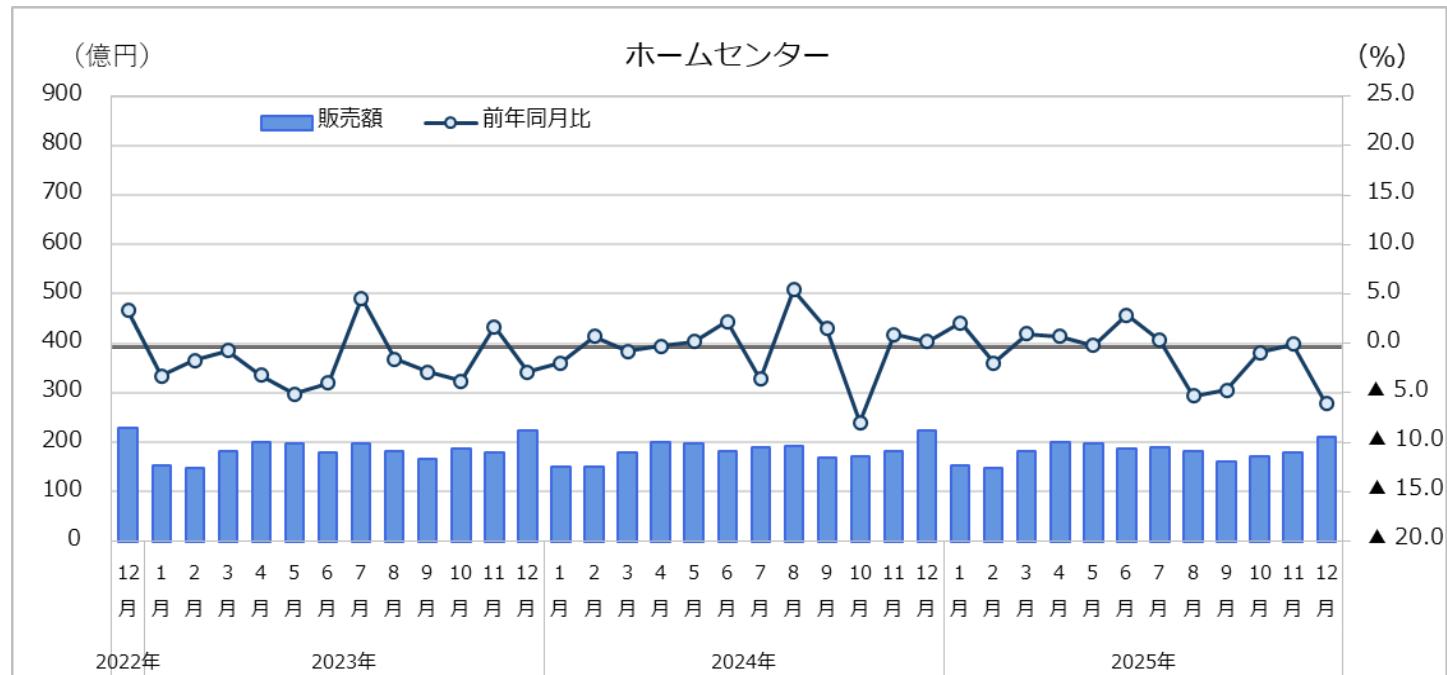
(3)コンビニエンスストアの状況 (2025年)

割安感と販売促進効果によりおにぎりと揚げ物が好調だった。また、価格上昇により菓子の売上が増加した。一方、物価高による節約志向の高まりで割高感のある弁当が低調だったほか、家飲み需要の低下もあり酒類の動きが鈍かった。



(4) ホームセンターの状況 (2025年)

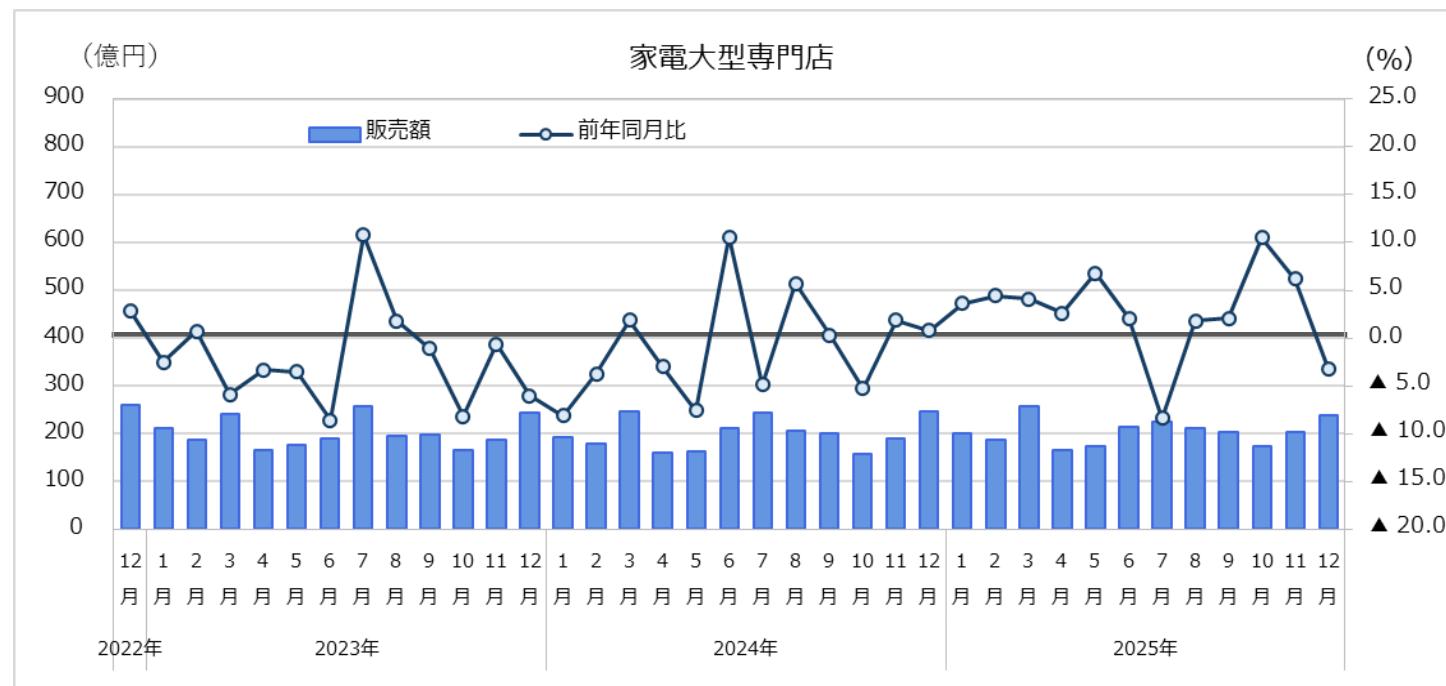
物価高による節約志向の高まりでインテリア用品が低調だった。また、前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、工具・金物類などのDIY用具や電池が低調だった。一方、販売促進効果により米や洗剤、紙製品の売上が増加した。



2. 個人消費

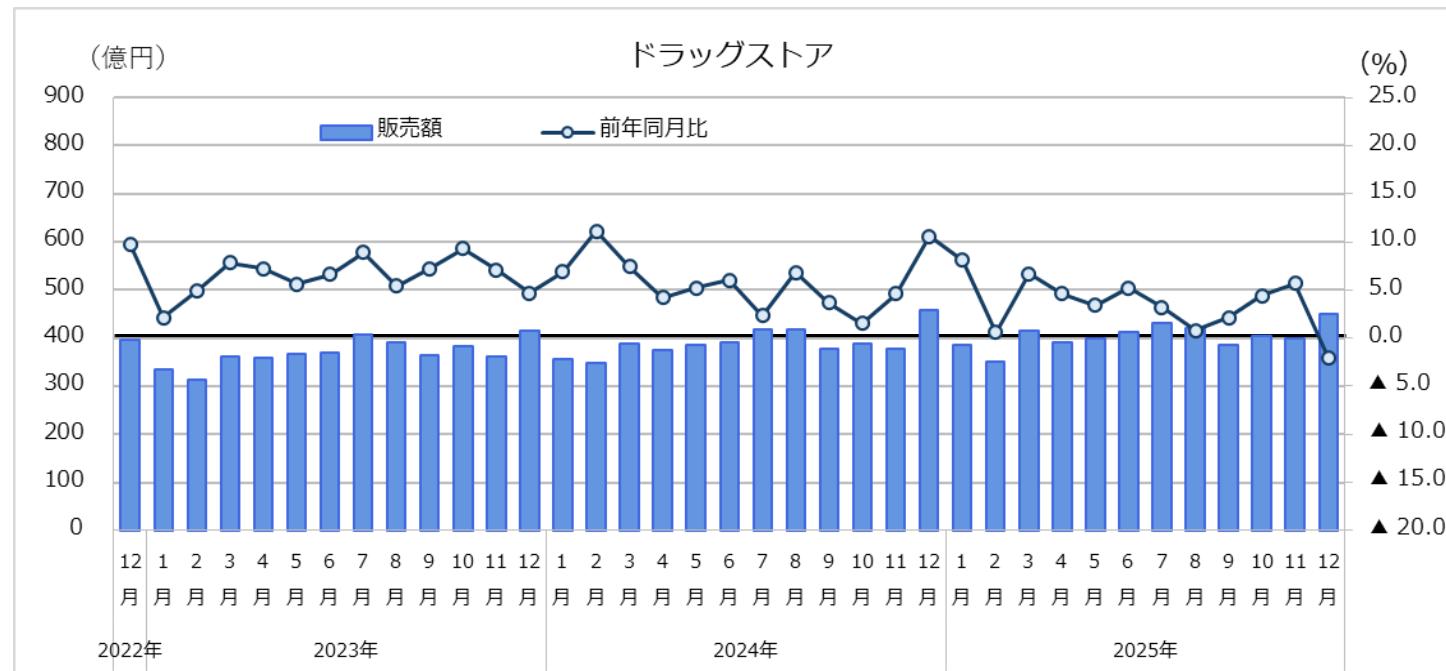
(5) 家電大型専門店の状況 (2025年)

買い換え需要によりパソコンが好調だった。また、販売促進効果により携帯電話が好調だったほか、気温の上下に伴いエアコンによる動きがみられた。一方、冷蔵庫の動きが鈍かった。



(6) ドラッグストアの状況 (2025年)

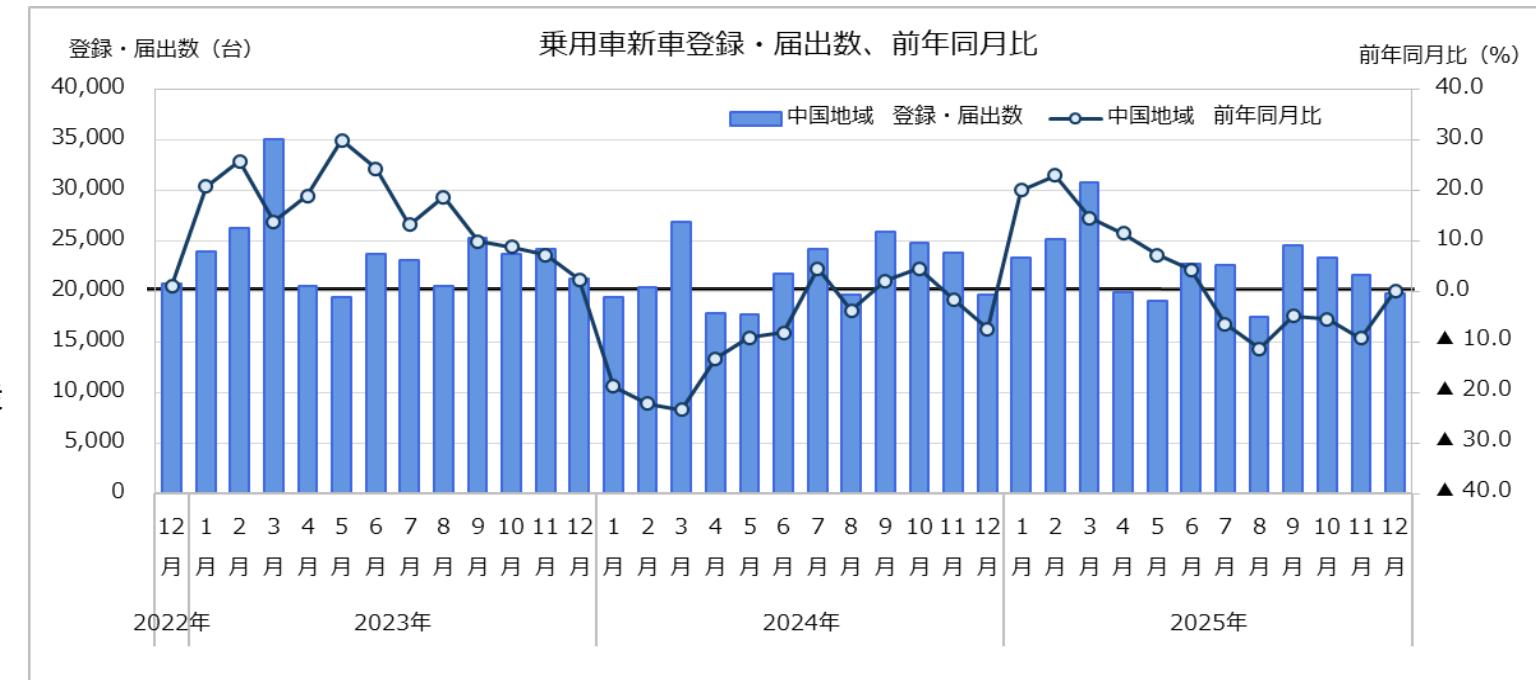
新店効果のほか、価格上昇により米、衣料用洗剤の売上が増加した。また、調剤薬局の認知度向上により調剤医薬品が好調だったほか、基礎化粧品にもよい動きがみられた。一方、マスクの売上が減少した。



2. 個人消費

● 乗用車新車登録・届出数

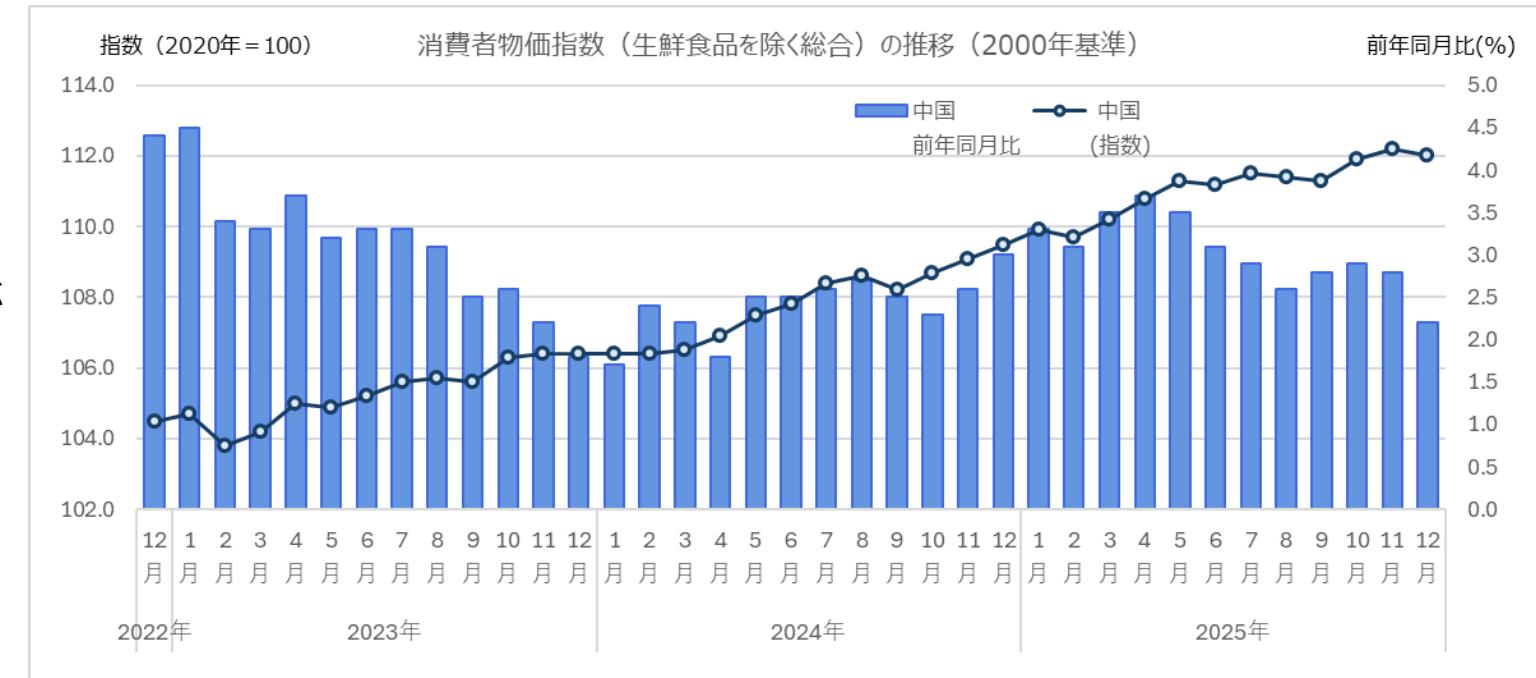
2025年12月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車が前年同月を下回ったものの、小型乗用車、軽乗用車が前年同月を上回り、合計では前年同月比0.2%と6か月ぶりに前年を上回った。



(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

● 消費者物価指数（中国地域）

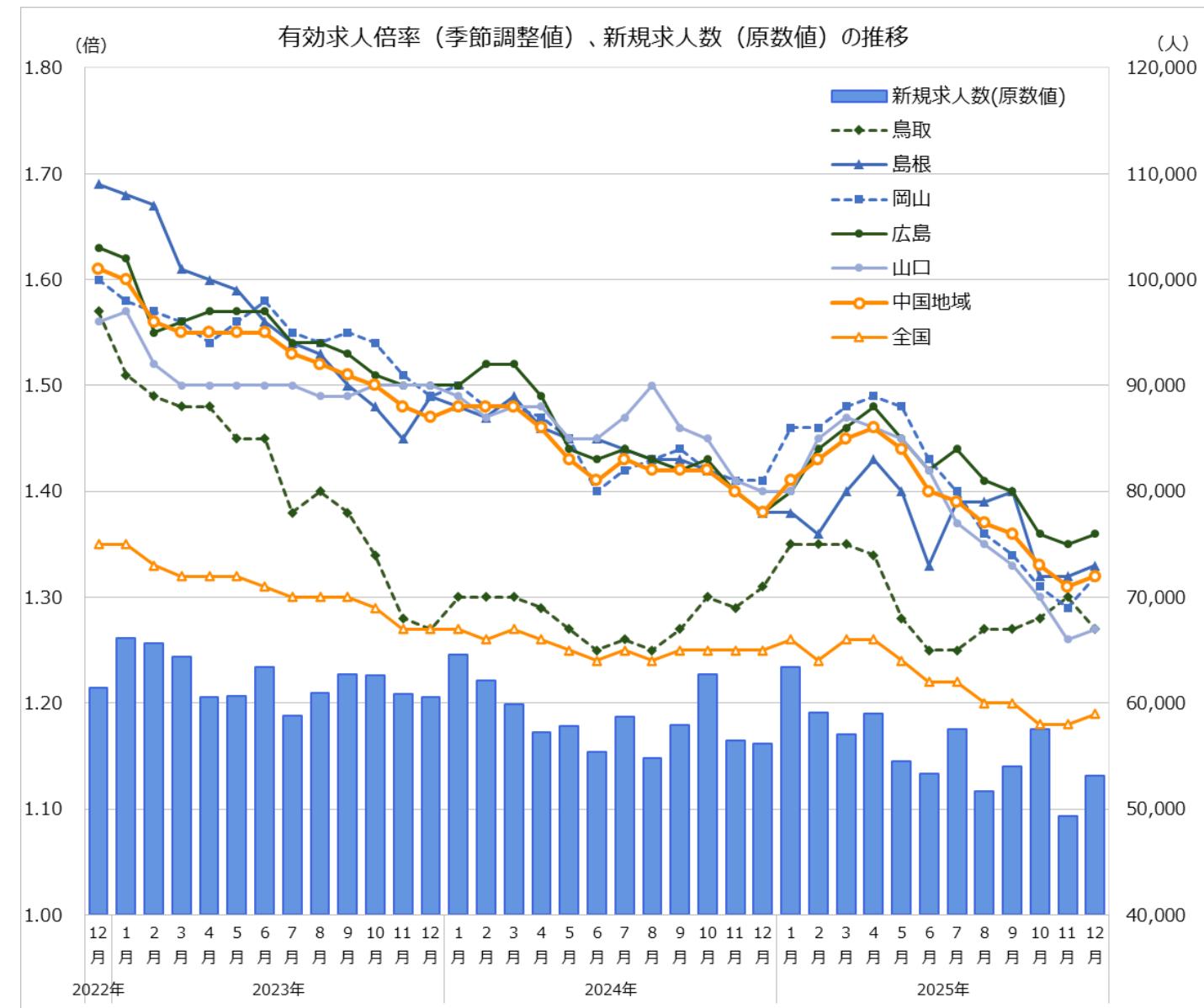
2025年12月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は前年同月比2.2%の上昇となった。



(資料) 「消費者物価指数」（総務省）

3. 雇用 ~有効求人倍率は前月に比べ上昇、新規求人数は前年同月比で減少~

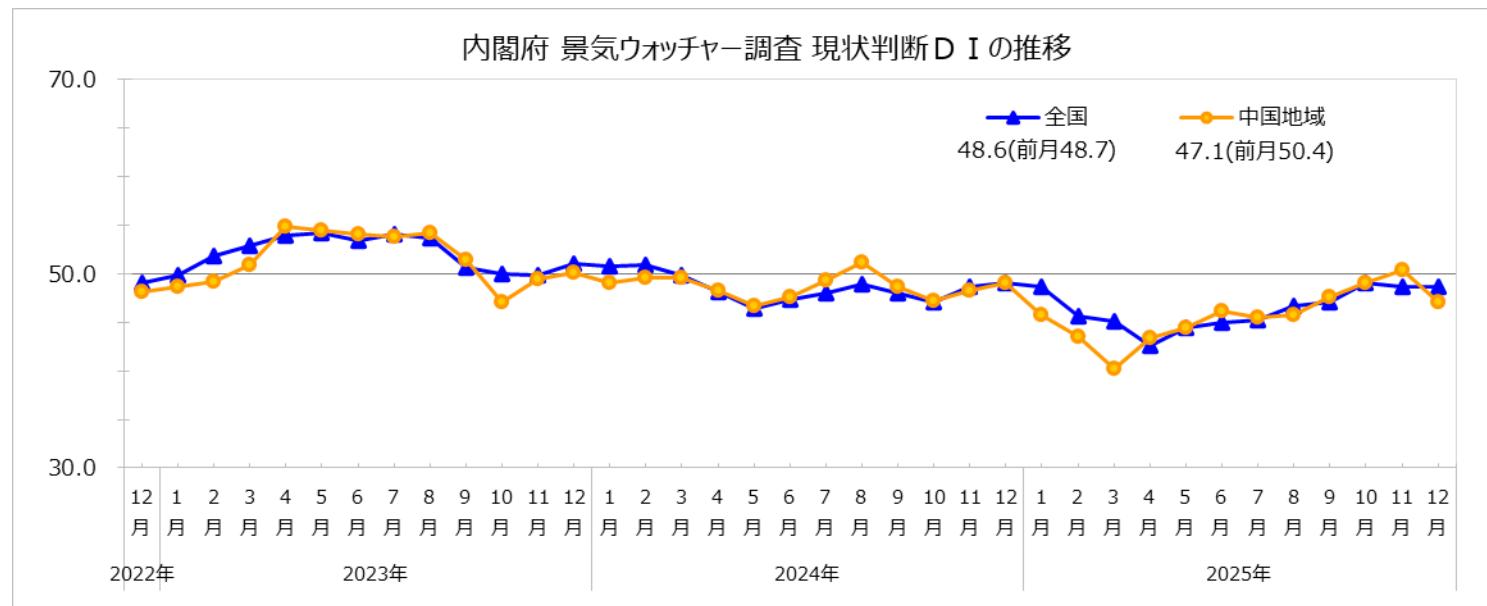
2025年12月の有効求人倍率は、1.32倍で前月の値を0.01ポイント上回り、8か月ぶりの上昇となった。
また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲5.4%で8か月連続の減少となった。



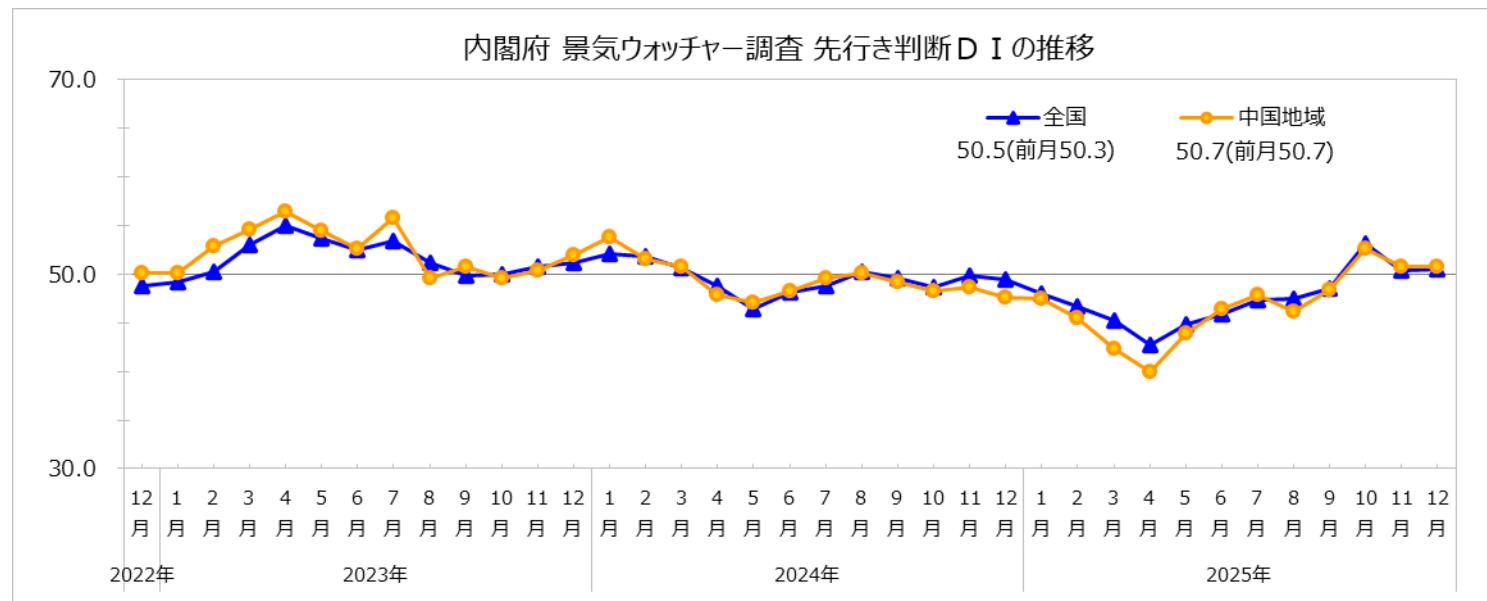
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

4. 景況感 ~現状は前月に比べ低下、先行きは横ばい~

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年12月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は47.1となり、前月差3.3ポイントの低下となった。

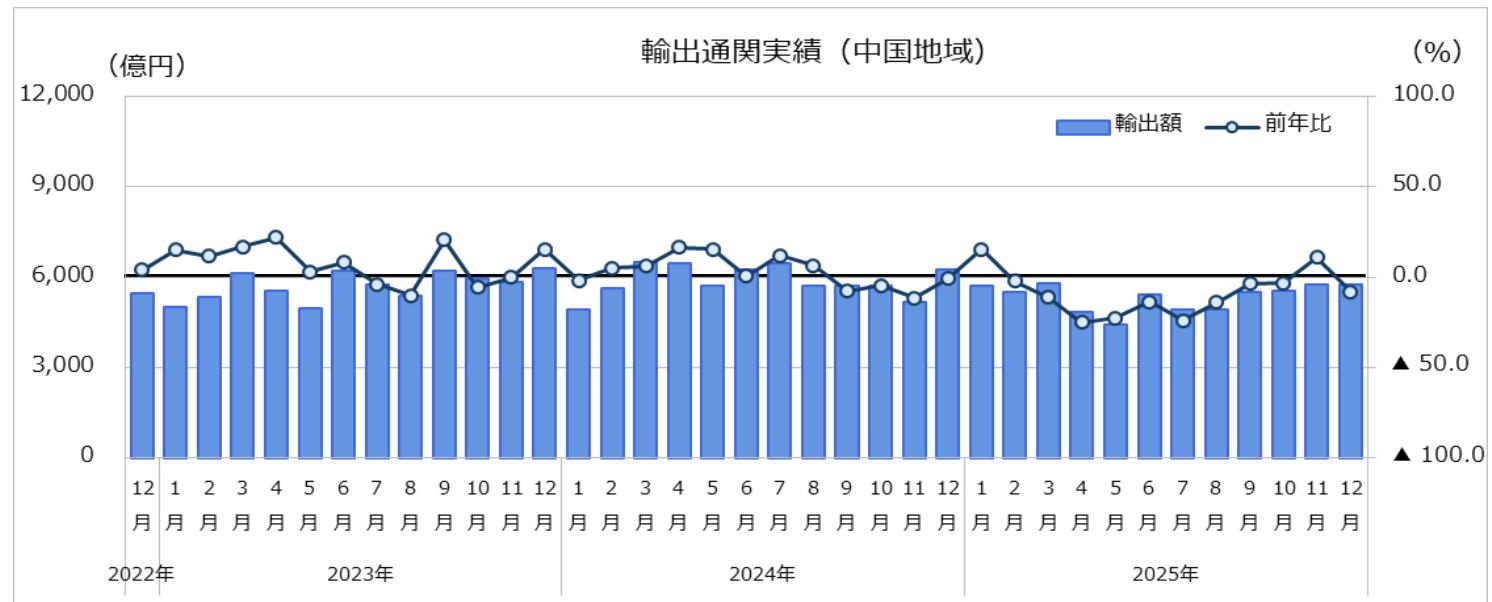


2~3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは50.7となり、前月の値と同じとなった。

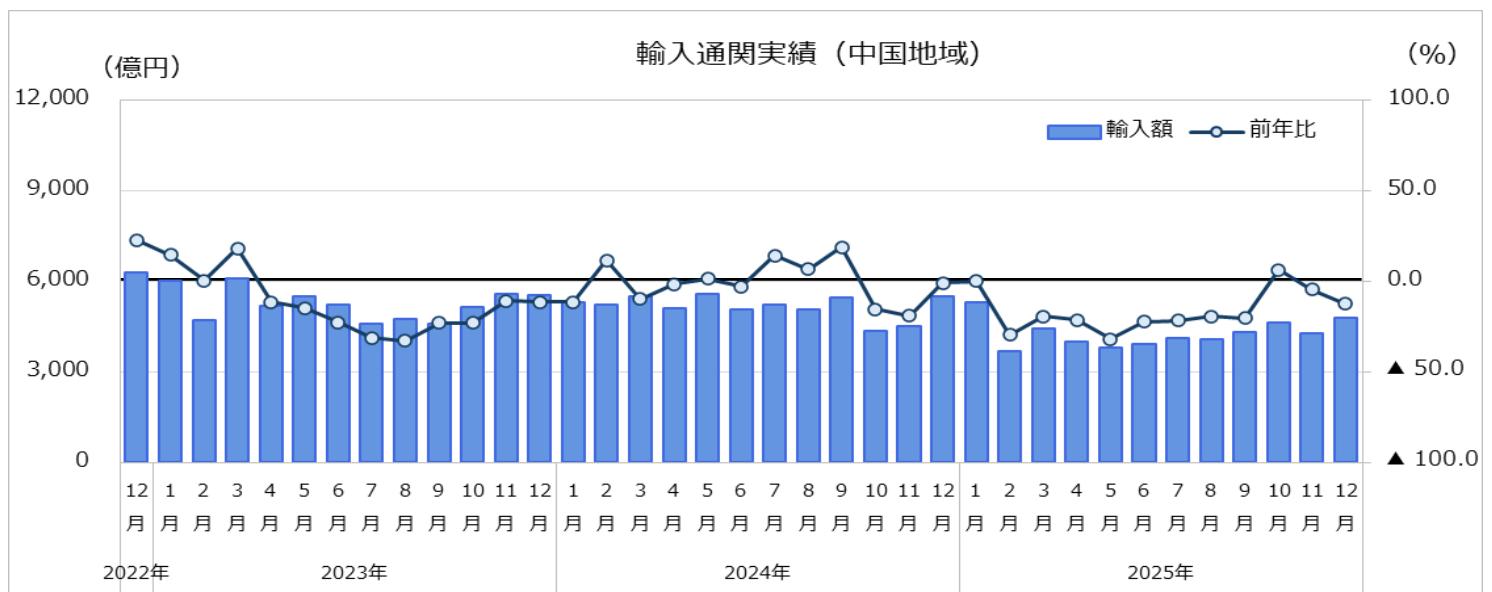


5. 貿易～輸出、輸入ともに前年同月比で減少～

2025年12月の輸出は、前年同月比▲8.1%と2か月ぶりに前年を下回った。
品目別では、船舶、半導体等製造装置などが前年を下回った。地域別では、アジア、中南米向けなどが前年を下回った。



2025年12月の輸入は、前年同月比▲12.5%と2か月連続で前年を下回った。品目別では、金属鉱及びくず、原油及び粗油などが前年を下回った。

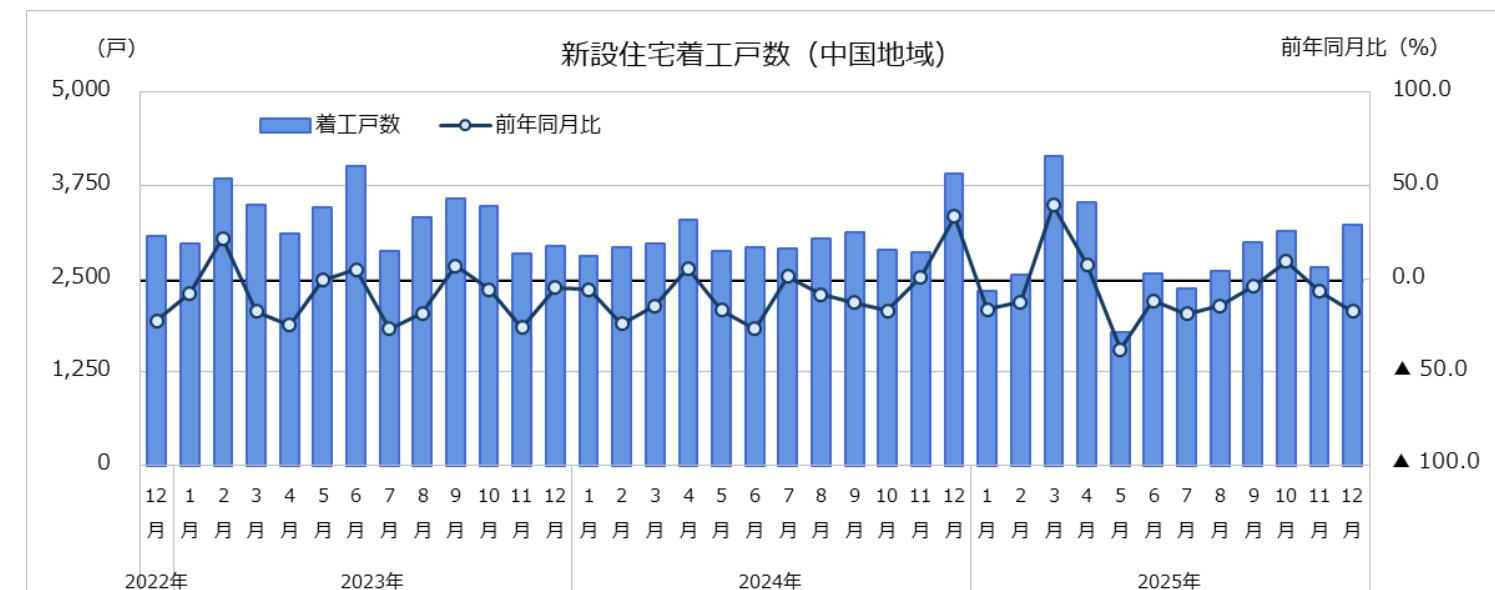
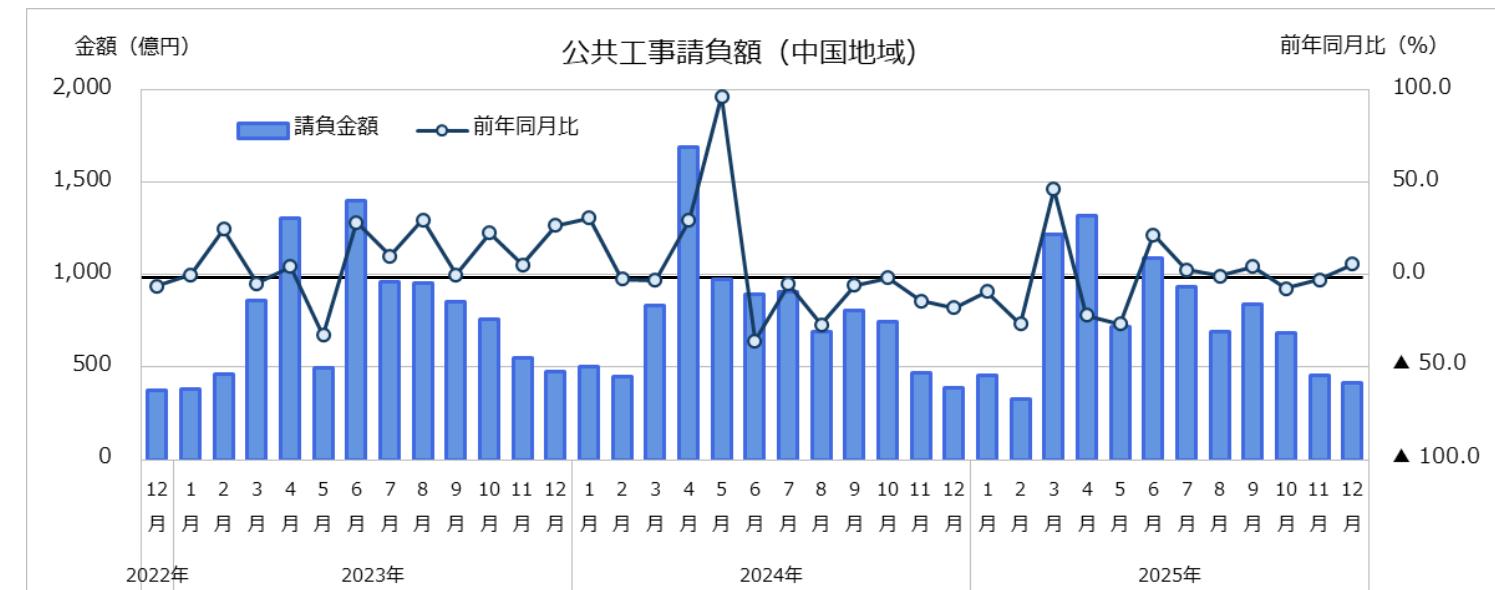


6. 建設動向 ~公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少~

2025年12月の中国地域の公共工事請負金額は、県、その他公共的団体で前年を下回ったものの、国、独立行政法人等、市町村で前年を上回った。合計では前年同月比5.7%と3か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店

2025年12月の新設住宅着工戸数は、給与住宅で前年を上回ったものの、持家、貸家、分譲住宅、で前年を下回った。合計では前年同月比▲17.4%と2か月連続で前年を下回った。



(資料) 「建築着工統計調査報告」 (国土交通省)

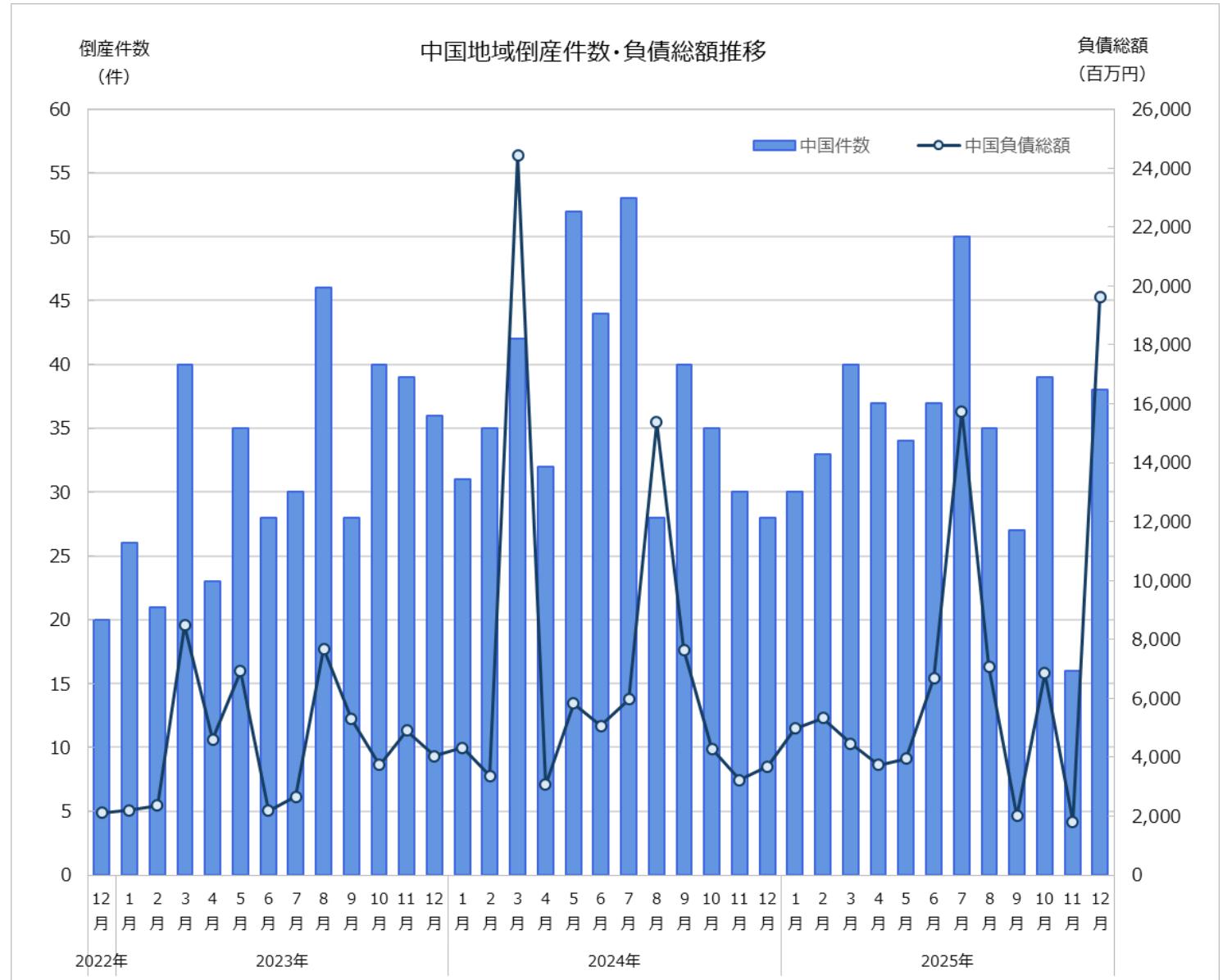
7. 企業倒産 ~件数、負債総額とも前年同月比で増加~

2025年12月の企業倒産件数は38件で、前年同月比35.71%と2か月ぶりに前年を上回った。

また、負債総額は196億2,400万円で、前年同月比431.81%と2か月ぶりに前年を上回った。

業種別にみると、サービス業他が12件、建設業が9件、製造業及び小売業が5件などとなった。

原因別にみると、販売不振が35件、既往のシワ寄せが2件、設備投資過大が1件となった。

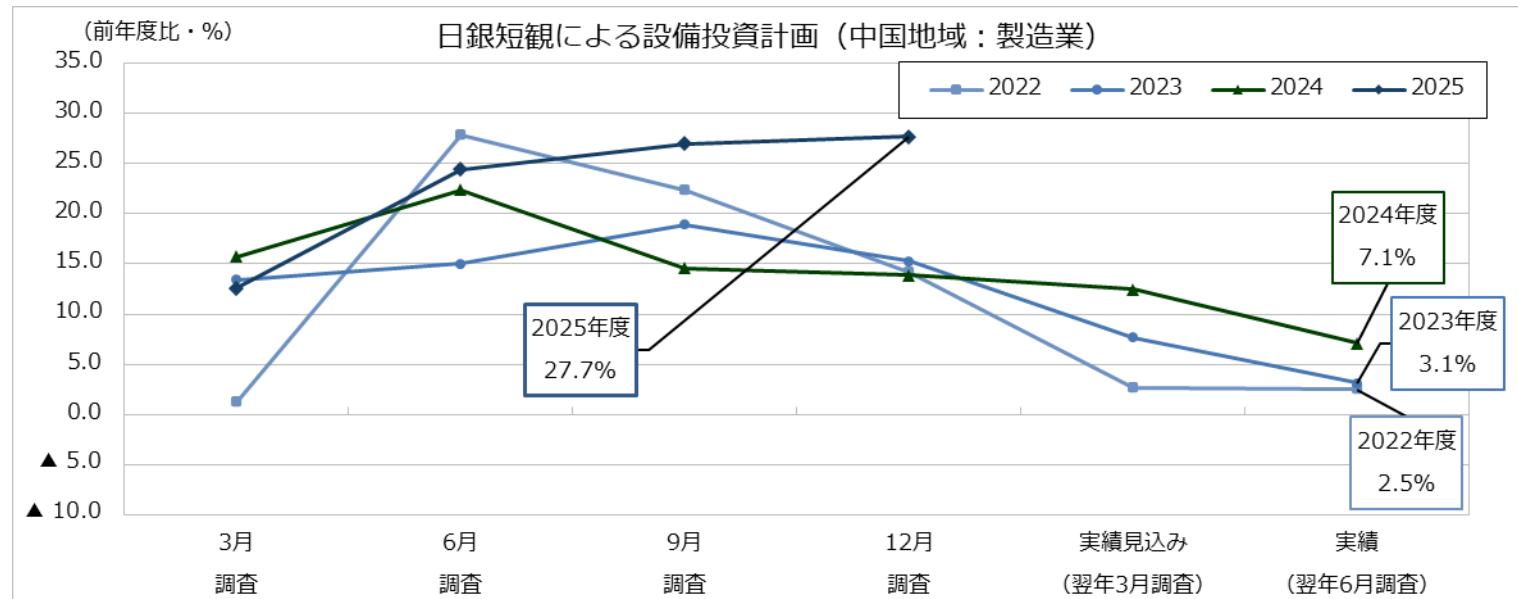
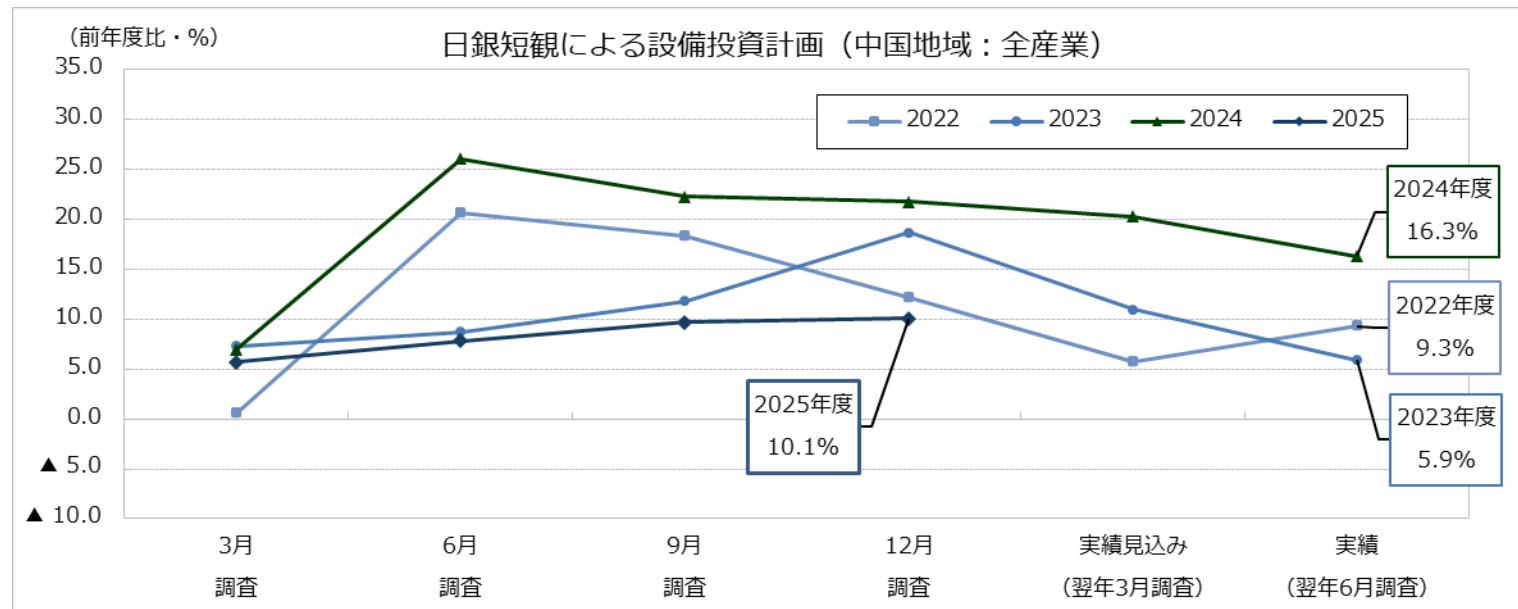


(資料) 「中国地区企業倒産状況」 ((株)東京商工リサーチ)

8. 設備投資～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年12月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.7%、非製造業が同▲6.1%となり、全産業では同10.1%となっている。

(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6回調査を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。



(資料) 「企業短期経済観測調査」(日本銀行広島支店)